

# ALPS処理水の処分に関する

安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2024年1月

# 販促·魅力発信

- 三陸常磐エリアの豊潤な海の幸を多くの方に知っていただき、味わっていただくための施策として「ごひいき!三陸常磐キャンペーン」 を2022年10月1日より実施。
- 2024年1月にはスーパーマーケットのサンリブ(広島県、山口県、福岡県、大分県、熊本県)、マルエッ(東京都、埼玉県、 千葉県、神奈川県)において三陸常磐海産物の販促キャンペーンを実施。
- また、同年 1 月22日からは、**福島県を中心に展開するスーパーマーケット「マルト」**にて、**ピッツァ職人の大坪善久氏とのコラボ** レーションによる常磐ものを使用したオリジナルピッツァを販売。

#### キャンペーンの様子













マルエツ(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)



マルトにおいて実施されたキャンペーンの様子

サンリブ (広島県、山口県、福岡県、大分県、熊本県)

- 宮城県において、漁業者団体及び県庁と連携し、**小中学生を対象に宮城県産水産物を使った親子料理教室を開催**。
- 調理・試食を通じて宮城県産水産物の魅力を伝えるとともに、保護者には「魚の栄養と健康」について、子どもには「お魚クイズ」を通じ魚について学ぶ機会を提供し、**若年層にも水産業や海産物を身近に感じていただく取組**。
- 2024年1月20日には第13回親子料理教室を開催。計9組の親子が参加し、海苔と春雨のスープ、銀鮭のソテー カレークリーム ソース、帆立貝のピラフをつくって味わった。
- 2024年2月まで月に2回のペースで、「お子様も美味しく食べられる」をテーマに、ご家庭でも手軽に実践できるレシピをお子様と一緒に楽しめる料理教室として開催予定。

#### 第13回「親子で参加♪宮城の海を味わう!料理教室」の模様







調理風景

銀鮭のソテー カレークリームソース(左上)、海苔と春雨のスープ(右上) 帆立貝のピラフ(下)

- 地域を元気にする仕組みとして導入されたふるさと納税の販路を活用し、三陸産水産物の魅力発信を行うべく、宮城県の水産加工会社や関係事業者へふるさと納税に関する専門家派遣を実施。
- 水産加工会社や関係事業者の魅力的な商品について、ふるさと納税の商品登録等を支援。
- ふるさと納税の販路を通じて、全国の消費者へ三陸産水産物のPRを図った。

#### 専門家による支援の模様







派遣の様子

申請の支援をした商品の一例

- 福島相双復興推進機構では、「6次産業化等へ向けた事業者間マッチング等支援事業」において、福島県産品の販路拡大に向けて、企業間取引拡大に向けたマッチング支援や小売り・イベント等による販売促進支援を行っている。
- 本事業において、中澤水産(相馬市)の販路開拓に向けたブランド立ち上げの支援とともに、関西の主にデパ地下で鮮魚店を 展開する「魚くみ」に試食販売を実施した。

#### 販路開拓支援成果(事例)

- 仲買業を主に営む中澤水産(相馬市)では、水産加工品の販売を伸ばすべく、新たな加工品の販路開拓に向けてブランド「OCEAN BROS(オーシャンブラザーズ)」(※)を立ち上げ。
  - (※) 本ブランドは、同社代表のご子息(ご兄弟)が家業に取り組んでいることから、これからの中澤水産、そして相馬を引っ張っていく ご兄弟をイメージ。ブランド立上げにあたり、本事業にて支援。
- 今回、二人が目利きして選んだ水産物(「生あおさ海苔」「ボイルやなぎだこ」)を関西の主にデパ地下で鮮魚店を展開する「魚くみ」 に出荷し、自ら店頭に立って試食販売。(次ページ(ふくしまうまいもの市のページ)参照)
- 今後、本ブランド名を掲げた水産加工品のアイテム数を増やし、今年度末に向けてブランド名の浸透、商品の展開を行っていく。



中澤水産のご子息



「OCEAN BROS」□ゴ



6

- 1月18日~21日の4日間、阪神梅田本店地下1階 生鮮売場にて開催された「ふくしまうまいもの市」において、関西の主にデパ 地下で鮮魚店を展開する「魚くみ」とタイアップし、福島県の水産加工品のコーナーを展開。
- 本イベントでは、福島県の水産加工業者3社の商品を販売するとともに、中澤水産の「ボイルやなぎたこ」「あおさ海苔」、カネキュウ鈴木商店の「めひかり唐揚げ」の試食を実施。また、20・21日には中澤水産のご子息2名が来場し、同社の2商品の試食を自ら実施。試食いただいた方にはアンケートにご協力いただいた。

#### ふくしまうまいもの市 in阪神百貨店梅田店









会場の様子

中澤水産のご子息

試食の様子

#### 〈来場者・参加者からの声〉

- お客様からは「タコが柔らかくて美味しかった」「あおさの香りがとても良い」「(めひかりが)美味しいし、珍しいので買う」といった、応援する 声が多く寄せられた。
- また、試食を手掛けた中澤水産のご子息からも「大阪はタコの消費が多い地域だとは知っていたが、ここまでにニーズが多いとは思っていなかった」「直接お客様から反応を見聞きすることで、今後の商品設計に気づきがあった。普段は実際に食べるお客様の顔を見ていないので、今回のお客様の反応を聞ける機会は刺激的で有意義だった」といった言葉をいただいた。

- 1月20日・21日の2日間、ビッグパレットふくしまにて開催された「ふくしまSDGs未来博」において、福島県沖の魚の資源保護、 未利用魚の利活用などをPRするブースを福島相双復興推進機構として出展。
- 本イベントでは、SDGsに向けた魚の資源保護や未利用魚の利活用についての相馬双葉漁業協同組合の青壮年部のトークショー、未利用魚を活用したメニューの試食のほか、子どもに興味を持ってもらうことを目的として、子どもが描いた魚の絵をデジタル画面で泳がせる「デジタル水族館」を実施した。

#### ふくしまSDGs未来博



デジタル水族館 (子どもが描いた魚の絵が泳ぐ)



絵を描く子どもたち



相双漁協トークショー



試食で提供した「お手軽ちぎり揚げ」

#### <来場者からの声>

お客様からは「試食したメニューが美味しかった。活用せずに捨ててしまうのはもったいない」「漁師さんの生の声を聴く機会はなかなかない。興味深かった」といった声が寄せられた。

## 日本貿易振興機構(JETRO)の取組事例①

販促・ 魅力発信

理解釀成

安全確保

- 1月21~23日に米国・ラスベガスにて開催された**米国西海岸最大級の高級食品見本市「Winter Fancy Food Show 2024」にジャパンパビリオンを設置**。 北海道、福島県、茨城県の5社が出展し、来場バイヤーとの商談を支援した。
- 本見本市において**日本がアジア諸国では初となる「パートナーカントリー」に選出**され、主催者が作成する各種媒体や会場内 広告等を通じて日本産食品を大々的にPRした。
- 水産品の輸出先多角化に向けた取り組みとして、ジャパンパビリオン内に水産品・水産加工品の販路拡大を目的としたプロモーションブースを設け、海外バイヤーに対してホタテを中心とする水産品をPRしたほか、米国の著名シェフが調理デモを行うイベントを開催し、来場者に対して日本産水産物の試食機会を提供した。

#### Winter Fancy Food Show 2024 出展概要

#### <見本市概要>

·会 期:2024年1月21日(日)~23日(火)

・会 場: Las Vegas Convention Center (米国・ラスベガス)

·主催者: Specialty Food Association (SFA)

·出展者数:未発表(前回2023年度実績:1,100社·団体)

·来場者数:未発表(前回2023年度実績:13,000人)

#### <ジャパンパビリオン概要>

·出品者数:49社·団体

・出品物:水産品・水産加工品、和牛、コメ・コメ加工品、果物、

調味料、茶、飲料、加工食品、菓子、等

・北海道、福島県、茨城県からの主な出品物:

和牛、調味料、コメ、加工食品、菓子

#### 会場の様子





ジャパンパビリオンの様子



プロモーションブースでの水産品展示



調理デモ

- ジェトロ大阪本部で、1月18日、19日に、**食品輸出商社17社と、関西・北陸を中心とする日本産農水産物・食品の輸出を希望する事業者99社との対面式の事前マッチング商談会「商社マッチング(関西・北陸)」を開催**。そのうち、品目別では最も多い**15社の水産・水産加工品を扱う企業が海外販路開拓に向けて商社と商談**。ほたるいか、牡蠣、ほたて、まぐろ等の水産品や昆布、のどぐろ、鯖、鯛、鮭、さわらなどの水産加工品について商談を行った。また、**福島県企業1社も参加し、漬物の輸出商談を行った。**
- 1月20日には、ジェトロ神戸の主催で、**商社マッチングに参加した企業を含む8社が**、昨年オープンした兵庫県姫路市の姫路市中央卸売市場を訪問し、**施設見学ならびに水産卸等と兵庫産水産物、加工品及び野菜・果実の商談を行った。**

#### ジェトロ商社マッチング(関西・北陸)

日時:2024年1月18日(木)~19日(金)10:00~17:00

場所:ジェトロ大阪本部

参加商社:17社 参加企業:99社

> ⇒そのうち、水産・水産加工品企業15社(大阪府4、兵庫県2、 富山県2、福井県2、京都府、和歌山、岡山県、島根県、三重県)

➡福島県企業1社(漬物)





(上2枚写真) 食品輸出商社と水産関連企業の商談の様子

#### 姬路市中央卸売市場 商談会·交流会

日時:1月20日(土)9:00~12:30

場所: 姫路市中央卸売市場

参加商社:8社参加企業:4社

紹介商品:兵庫産イカ、タイ、タコなど(冷凍)

カニカマ、いか塩辛などの珍味類など

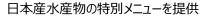


姫路市場視察の様子

- 1月17日、世界経済フォーラム(ダボス会議)期間中に日本をテーマとして開催されるレセプションにおいて、関係省庁とも協力し、日本食を通じたネットワーキングの場を提供した。
- 世界の財政界のリーダー約450名が参加するなか、国際すし知識認証協会アンバサダーの寿司職人や、京都・祇園の和食料理人を起用し、水産物を中心とした日本食のメニューを提供するとともに日本食文化をPRした。

#### ダボス2024 Japan Nightにおける食の提供







河野太郎デジタル大臣

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見!ふくしま」の取り組みの一環として、シンガポールのザリッツカールトンミレニア内会場で開催される「天皇誕生日祝賀レセプション」にブースを初めて出展。「常磐もの」の煮干しと三陸産ホタテを使用したスープの中華そばや福島県産の日本酒を提供する。
- 渋谷区の代々木公園で日本最大級の魚食イベント「SAKANA&JAPAN FESTIVAL2024」と連携し「常磐もの」をはじめとした福島県産水産品のPRイベントを開催。「発見!ふくしま」 11 ブースに加えて「北海道・三陸」 10 ブースも出店する。

#### 在シンガポール日本大使館主催天皇誕生日祝賀レセプション出展

■日程:2月19日(月)18:30~20:00

■場所:ザリッツ カールトン ミレニア シンガポール



▲レセプション会場イメージ







▲提供メニューイメージ

(左:常磐もの中華そば、中:ホタテ貝柱干し、右:福島県産日本酒

# in SAKANA&JAPAN FESTIVAL2024

発見!ふくしまお魚まつり

■日程:2月22日(木)~25日(日)※

■場所:東京都渋谷区代々木公園

※22日~24日 10:00~20:00 25日 10:00~18:00



▲会場の様子(2023年2月)

- 昨年11月30日~12月1日の2日間、東京都港区のJR新橋駅西口広場で「ホタテ祭り in 新橋SL広場」を開催。国産ホタテに加え、北海道・三陸・常磐エリアの水産品メニューや福島県産の酒類を提供するブースを出店し、合計約1.4万食を販売した。
- 1月2日に首都圏の百貨店である大丸東京店及び松坂屋上野店で新春初売り「ふくしま わき辰(たつ)おいしさ!福袋」を販売。 大丸東京店では、福島牛や福島県産米、ふくしまグルメの詰合せ、北海道産ホタテ計4種類の福袋480個を完売し、松坂屋 上野店では、福島牛の福袋全200個を完売した。

#### ホタテ祭り in 新橋SL広場



▲会場の様子



▲国産ホタテブース



▲常磐ものブース

#### ふくしま わき辰 (たつ) おいしさ!福袋



▲大丸東京店の様子



▲松坂屋上野店の様子

# 理解醸成

■ ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示するページについて、Yahoo!JAPANのトップページに バナー広告を掲載。



#### Yahoo!JAPAN バナー広告





■「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。

(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

#### 1分程度でわかりやすく解説する動画







ALPS処理水って何?
本当に安全なの?

② トリチウムって何?

③ なぜALPS処理水を 処分しなければならないの?



④ 本当に海洋放出をしても 大丈夫なの?



⑤ 近海でとれた魚は 大丈夫なの?

16

様々な機会・あらゆるレベルで、ALPS処理水の海洋放出に関する発信や働きかけを実施。

#### 齋藤経済産業大臣とエマニュエル駐日米国大使との会談

- 1月9日(火)、齋藤大臣はエマニュエル駐日米国大使の表敬を受けた。
- 会談では**齋藤大臣からエマニュエル大使の日本産ホタテのPRに向けた働きかけに対して感謝の**意を示した。

#### 齋藤経済産業大臣と米国議会日本研究グループ訪日議員団との会談

- ✓ 1月23日(火)、齋藤大臣は米国議会日本研究グループ訪日議員団一行の表敬を受けた。
- 会談では、斎藤大臣から、日本産水産物に関する米国の理解と支援に謝意を示した。

#### 石井経済産業大臣政務官とルクスィッチ・デジタル・交通省政務次官との会談

- 1月24日(火)、齋藤大臣はドイツ連邦共和国のルクスィッチ・デジタル・交通省政務次官と会談を行った。
- 会談では石井政務官から、ALPS処理水についてドイツのサポーティブなメッセージに謝意を示した。





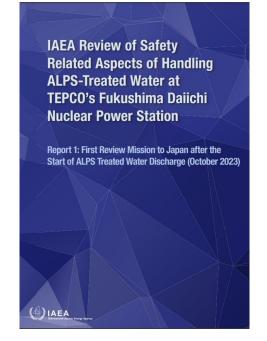


(中) 米国議会日本研究グループ訪日議員団の齋藤大臣の表敬、(右) 石井経済産業大臣政 (左) エマニュエル駐日米国大使の齋藤大臣の表敬、 務官とルクスィッチ・デジタル・交诵省政務次官の会談

# 安全確保

# IAEAによるALPS処理水の安全性レビュー(放出後第1回) について報告書の公表

- 2023年10月24日から27日にかけてIAEAの職員及び国際専門家(アルゼンチン、英国、カナダ、韓国、中国、フランス、ベトナム、マー シャル諸島、ロシア)が日本を訪れ、ALPS処理水の海洋放出後第1回目となるレビューミッションを実施。
- 2024年1月30日、IAEA(国際原子力機関)は、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の安全性レビュー(放 出後第1回)に関する報告書を公表。
- 全体的な内容としては、タスクフォースにより、**関連する国際安全基準の要求事項と合致しないいかなる点も確認されなかった**。
- 具体的な確認結果としては以下のとおり。
  - ・ ALPS処理水の放出を安全に監視するための強固な規制インフラが整備されている。
  - ・ 機器及び設備が実施計画及び関連する国際安全基準に合致した方法で設置され、運用されている。
  - 実施されている環境モニタリングプログラムが国際社会にとって非常に重要であることを強調。 東電と日本政府が報告するデータの正確性と信頼性を担保し、透明性を提供するIAEAの裏付け調査の重要性にも言及。
- 東京電力と原子力規制委員会の活動が関連する国際安全基準に合致しているかどうかを評価するため、引き続きレビューを実施する 計画であり、次回のレビューミッションは2024年春に実施される予定。



- 2024年1月30日、IAEAは、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の安全性に関するレビューに関連して、 「ALPS処理水の放射性核種分析における第2回目の分析機関間比較」に関する報告書を公表。
- 分析されたALPS処理水は、2022年10月に、IAEA立会いの下で、ALPS処理水等貯蔵タンクから採取されたもの(放出前の測定・確認用タンクにおける分析は改めて実施される。)。
- 東京電力、IAEA研究所及びIAEAにより選定された第三国の分析機関による分析結果を比較した結果、IAEAの独立した立場からデータの裏付けがなされ、東京電力は高水準の測定の正確性と技術的能力を持つことが証明された。

#### 報告書のポイント

- □ IAEAは、東京電力は正確で精密なALPS処理水の分析能力を 有していることに留意する。さらに、IAEAの観察に基づき、東京電力 は、ALPS処理水の放出中における福島第一原発で継続中の技術 ニーズを支援するための持続可能で堅固な分析体制を構築してい ることを実証したと結論づける。
- 1) 東京電力は高水準の測定の正確性と技術的能力を持つこと が証明されている。
- 2) 東京電力のサンプル採取手続は、代表的なサンプルを得るために必要な適切な基準に従っている。
- 3) 東京電力が報告した検出限界値によると、使用されている核 種分析の方法は、適切で目的にかなったものである。東京電 カのソースタイムに含まれる報告された全ての放射性核種検出 限界値は、規制基準の1%未満であった。

【分析活動に参加したIAEA研究所】

- ・海洋環境研究所(モナコ所在)
- ・陸域環境放射化学研究所(サイバーズドルフ所在)
- ・アイソトープ・ハイドロジー研究所(ウィーン所在)

【分析活動に参加した第三国の分析機関】

·韓国原子力安全技術院(韓国)

### 東京電力

- ○海水中トリチウムを測定。
- ○海洋放出期間中に重点化し、放出中及び放出終了から1週間は、放出口周辺の4地点で毎日、発電所から3km以内の6地点で週2回を実施。
- ○放出停止中は、放出口周辺の4地点で週1回、発電所から3km以内の6地点で月1回実施。

### 水産庁

- ○水産物は年約380検体でトリチウムを測定。
- ○放出後当面の間、①放水口の北北東へ約4km、② 放水口の南南東へ約5kmの2地点で、迅速分析を 実施。

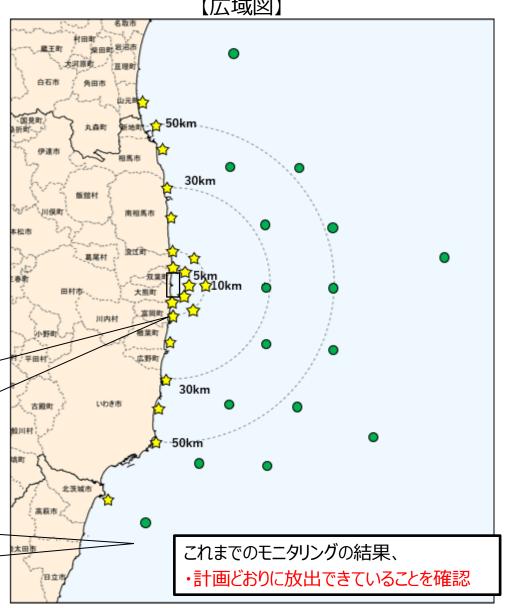
## 環境省

- ○海水中トリチウムを測定。
- ○海洋放出期間中に重点化し、約17日の放出期間中 は放水口近傍の3地点は2回、その他20地点で1回 実施。☆
- ○放出停止中は、放水口近傍の3地点を月1回実施。

### 原子力規制庁

- ○海水中トリチウムを精密分析にて測定。
- ○20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城 県沖北部でも、精密分析を実施。●

### 【広域図】



- 一昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、定期的に地元紙(福島民報、福島 民友、河北新報、岩手日報、茨城新聞)に広告を掲載。
- 本年1月も2回掲載しており、今後も**月1~2回の頻度で継続的に実施を予定**。

#### 新聞への広告掲載内容(左上:モニタリング状況のお知らせ、右下:第33回)

